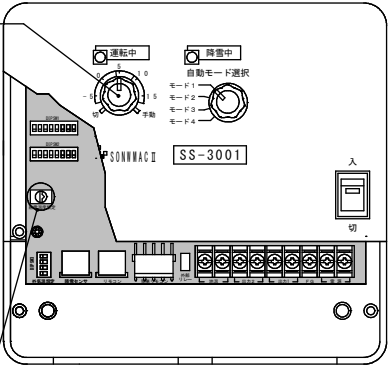


用語説明

用語	機能	説明
遅延タイマー	雪が降り止んでからの延長タイマー	遅延タイマーには標準機能の比例タイマーと固定タイマーがあります。
比例（遅延）タイマー	降雪量により可変される遅延タイマー	毎分ごとの降雪量に比例したタイマー値が自動設定され遅延運転を行います。
固定（遅延）タイマー	任意に設定された遅延タイマー	あらかじめ設定された固定した値がタイマー値となり遅延運転を行います。
ハイリミットタイマー	比例タイマーの上限値	比例タイマー値は降雪センサで検出された量により加算する数値を決めます。 加算は毎分ごとに行います。 本機能はその加算の上限値です。
動作すきま (工場出荷値 2℃)	温度制御で運転を開始する温度設定値	地温の温度制御で「温度調節ツマミで設定された温度」は停止する値で「動作を開始する温度」は『動作すきま』で設定された温度になります。 温度制御は設定値を 7℃とした場合、動作すきまは 2℃なので、運転開始温度は 5℃となります。
加算値	降雪センサで検出された量により加算する数値(分)	毎分ごとに演算されます。 降雪量を強、弱、無に分類し、それぞれ 4 分、2 分、-1 あるいは 0 分を加減算します。
インターバル (工場出荷値 5 分)	予熱運転や待機状態から融雪運転や降雪運転へと切替わるまでの待機時間	予熱運転や待機状態の時に雪を検出した際に遅延タイマー値が 5 分以上、加算されるまでは融雪運転や降雪運転になりません。
予熱運転	雪の降っていない時の運転	雪を検知していなくても温度調節ツマミで設定した温度より地中温度が下がると運転を行いません。 地中の温度を最低限保ち、雪が降ってきた時の融雪運転の立ち上がりを早くします。

<p>融雪運転</p>	<p>雪を検出した時の運転 遅延タイマー時間分を温 度制御する</p>	<p>雪を検知し、遅延タイマー値がインターバルを超えると融雪運転をします。 融雪運転の停止温度は（「予熱温度設定値 7℃」 + 「融雪温度設定値 7℃」で） 14℃となります。 融雪運転は遅延タイマー時間分、温度制御します。</p>
<p>降雪運転</p>	<p>雪を検出した時の運転 遅延タイマー時間分、運転 する。 温度制御はしない</p>	<p>雪を検知し、遅延タイマー値がインターバルを超えると降雪運転をします。 降雪運転は温度制御しません。 降雪運転は遅延タイマー時間分出力（オン）します。</p>
<p>予熱温度設定値</p>	<p>予熱運転の制御温度設定 値です。 工場出荷時は 7℃です。</p>	<p>セントラルユニットの温度調節つまみで設定した値 です。 停止する温度を設定します。</p>
<p>融雪温度設定値</p>	<p>融雪運転の制御温度設定 値です。 工場出荷時は 7℃です。</p>	<p>セントラルユニットの融雪温度設定スイッチで設定す る運転温度です。 予熱温度設定値で設定した値に加算された値が融雪温 度設定値となります。（融雪運転の停止温度）</p> <div data-bbox="845 1025 1420 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予熱温度設定</p>  <p>融雪温度設定 （予熱温度設定に加算します。）</p> </div> <p>例) 予熱温度設定 7℃、融雪温度設定 7℃の場合、 融雪温度設定値は 7℃ + 7℃ = 14℃ となります。</p>